

～はじめに～

当園では、子どもたちに保育の中で提供したいことを大きく3点挙げています。①日本が昔から大切にしているものを保育に取り入れる②対話に基づく保育③主体的に思考・判断・表現出来る場面を提供するの3点です。本日は、①日本が昔から大切にしているものを保育に取り入れるについて、取り上げお伝えしたいことがあります。

当園の園庭は、日本が昔から大切にしている環境の一つである「里山の遊び環境」になるよう沢山木を植えています。しかし、植物を植える事で、子どもが枝で擦れて怪我をしてしまったり、危険生物が園庭に遊びに来たり、毒性の植物が生えたり、というリスクに繋がる危険性があります。これらは、全て取り除くと、同時に「子どもたちの経験」も取り除く事となります。かといって、全てそのままにしておく「命の危険」に関わる事もあります。

当園は、以前から何度もお伝えしている通り「小さな擦り傷多くして、大きな怪我を防ぐ」という考えで保育を行なっています。

では、具体的にどのようなリスク（小さな危険）は受け入れ、ハザード（命に関わる事）を取り除きながら、保育を進めているかを今回お伝えしたいと思います。

子どもたちが、怪我やその他のリスクに向き合う事で、子どもの危機察知能力が身についたり、調整力が身につくと考えています。

では、自園の中には、どのようなリスクとハザードが存在するのでしょうか・・・保護者の皆様に自然の知識も含めて、紹介したいと思います。また、本用紙が、保護者の皆様の自然環境への考え方の見直しに繋がればと思います。

そもそも・・・日本に毒性の生き物、植物はどの程度生存しているかご存じでしょうか？日本には、約200種類もの毒性植物があるといわれています。では、園庭には、どのような植物があるのでしょうか。

【ポイズンリムーバーの使用について】

→毒性生物等に刺された場合は、ポイズンリムーバーを使用します。今年度は、看護研修の際、職員も使い方を学び直し、再確認しています。

園内に潜む毒性植物について

ヨウシュヤマゴボウ

ちゅうりつ組保育室、裏側廊下に生えています。ヨウシュヤマゴボウは有毒植物で、全体にわたって毒があり、果実も有毒で、毒性は、根>葉>果実の順です。果実中の種子は毒性が高く、毒成分は、アルカロイドです。根は誤食すると、2時間ほど経過後に強い嘔吐や下痢が起こり、摂取量が多い場合は、更に危険があります。誤飲等に繋がらないよう口に含む危険のある発達段階の子どもには提供を控えたり、保育者がそばに付いたりしながら色水遊び等で提供します。また、子どもが作成した色水は保護者の皆様に確認のもと持ち帰る可能性があります。



ナンテン

幼稚園正門前にあります。実を多量に摂取すると、大脳、呼吸中枢の麻痺作用があり、知覚や運動神経にも強い麻痺を引き起こすため、可能性があります。大量接種等に繋がらないよう、ヨウシュヤマゴボウ同様に口に含む可能性のある発達段階の子どもには提供しないようにしたり、保育者がそばにつき、製作遊び等で提供致します。



（果物によるリスク）

・レモン
こすもす組前にあります。実は枝に棘があります。葉はこすると大変良い匂いがします。保護者の皆様も是非触れてみて下さい。



・ゆず
園庭池とアヒル小屋の間に生っています。レモン同様、枝に棘があります。葉をこするといい匂いです。



→沢山の植物があります。是非、保護者の皆様も触れてみて下さい。

園内に遊びに来る危険生物について

（ハザード）

・今年度は、園庭にハチの巣が3つあったので、全て園児の安全確認後、取り除いています。

スズメバチ

・オオスズメバチ（3～4cm）と黄スズメバチ（1, 7～2, 4cm）は、夏場に何度か偵察に園庭に来ます。今年度は、初めて園庭に巣があったので、見つけ次第駆除しています。過去園内被害はありません。（生息地）野外センター、服部緑地公園、五月山、園にも。キロスズメバチ：コンクリート等にも巣を作れる。（症状）局所症状：基本的に患部が赤く腫れ、痛み・かゆみが伴う アナフィラキシー：（自覚）体のしびれ・めまいや痙攣、耳鳴り（他覚）全身蕁麻疹、顔面蒼白、意識障害



アシナガバチ

スズメバチに比べると、大人しく、基本的に攻撃しない限りは、刺して来たりしません。複数刺された場合のみ、アナフィラキシーショックの可能性があるため、巣があった場合は、駆除して対応します。



（リスク）

キムネクマバチ

・今年度、乳児砂場上に巣作りする様子が見られ、安全の為一応駆除 ※オスは針がない為、刺しません。メスも基本的に人間に興味を示さない安全なハチです。見た目は怖いですが、「蜂だから危ない」ではなく、「刺さない蜂もいる」という事を知って頂きたいです。



アオカミギリモドキ（H2 8～）

園庭にまれにいます。ヤケドムシやデンキムシと呼ばれ、火傷のよく似た水ぶくれを引き起こすことがあります。



ヨコツナサシガメ

捕まえると刺されることがあります。門前桜の木高所に稀にいる為ほとんど見る事はありません。



ジョロウグモ（R3.8月頃アトリエ2階付近）

ジョロウグモは、微量の毒を持っており、興奮性神経の伝達物質であるグルタミン酸を阻害する性質がある。ただし、人が噛まれたとしてもほとんど問題はない。



【益虫と害虫～人間の都合で分けられた虫達～】

【益虫】→何らかの形で人間の生活に役立つ、昆虫や小動物を指している。害虫と反対の意味。

【害虫】→農業害虫・衛生害虫・財産害虫・不快害虫 等様々な種類に分けられる。

アシダカグモ



ヤスデ



ゲシゲシ



カマドウマ



↑上記の虫は、全て毒がなく、不快害虫と呼ばれています。不快に感じるだけで害虫と呼ばれる虫たち ※以上を踏まえて、皆様は、どのように子どもたちに声をかけられますか？

自然は、子どもと関わるの中で、大人の声かけや関わり方により子どもに危険が及んだり、命や自然の考え方が変わるきっかけとなったりします。是非この機会に一度考えてみて頂ければ幸いです。

（参考文献）『危険生物 ファーストエイドハンドブック 陸編』 文一総合出版